

公益財団法人日産財団 第3回リカジョ賞の選定について〈講評〉

選考委員長 長谷部伸治

公益財団法人日産財団では、女子児童・生徒の理科への興味・関心を高める活動の中で、特に優れた成果を残した個人または団体を対象に、「日産財団リカジョ賞」を授与している。

本年度は、2019年6月3日から2020年2月28日までの公募期間に、昨年度（18件）を上回る28件の申請があった。この中から、本財団の5月の選考委員会において、第3回日産財団リカジョ賞グランプリ候補として下記3件を選定した。

そして、今回の成果発表を受けて、1件をリカジョ賞グランプリに、2件を同準グランプリに認定した。また、前回まではグランプリと準グランプリのみの褒賞であったが、今回よりリカジョ賞の趣旨に沿った応募であり、優れた成果を収めたと認められる12件の応募を、奨励賞として褒賞することとした。COVID-19対応で、対外活動を行うには困難な点もあるが、応募・受賞された皆様には、様々な工夫をし、今後とも活動を継続されることを期待する。

【第3回日産財団リカジョ賞 グランプリ】

函館工業高等専門学校・理系女子実験隊：地域の小中学生への理工系の啓蒙・普及活動と、その指導役の女子学生自身の成長を目的とした活動として高く評価する。高専女子学生が主体的に取り組み、かつPDCAサイクルが回るように工夫されており、講師として参加した学生の成長が十分期待できる取り組みである。また、高専のPR活動としての成果も、同校への女子進学数の増加として明確で有る。今後とも教員と高専女子学生が一体となった活動として、継続しての実施を期待する。

【第3回日産財団リカジョ賞 準グランプリ】

同志社大学：理工学部を中心に多くの学科の協力の下、1年を通して幅広い活動を組織的・計画的に継続して実施している点を高く評価する。教員だけでなく、女子学生や、大学院生、企業の女性エンジニアが参画する活動は、女子中高生が将来のキャリアパスを考える上で、参考になる点が多い。本取り組みに参加経験

のある中高生を、進学後OGとして参画させている点も、自律的な活動の持続や、今後学生目線でのプログラム改善を進めていく上で効果的である。「今後の展望」にも書かれているように、プログラムの継続と地域拡大を是非図っていただきたい。

国立大学法人筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター：
100名を超える中高生を対象に、様々な取り組みからなる2泊3日の合宿を継続して行っている点を、高く評価する。合宿プログラムには、講演や実験体験だけでなく、中高生による研究発表ブースや企業・研究機関の発表ブースの設置、産官学の講師を交えたラウンドテーブルカフェ、研究機関見学などが組み込まれており、非常に完成度の高いプログラムであるといえる。今後の継続を期待すると共に、本プログラムの特徴である教師や保護者参加について、その効果を解析し、是非公表していただきたい。